学　会　録　事

1. 日本藻類学会第24回大会報告

(1) 日本藻類学会第24回大会

日本藻類学会第24回大会を2000年3月28～31日，長崎大学環境科学部・全学教育棟（長崎市）において開催した。大会会長は四井敏雄氏（長崎水試）で，一般講演は95題(口答発表62題，展示発表33題）におよんだ。大会参加者は207名であった。また，講演数が多かったことから2会場を用いて並行して発表が行われた。

大会1日目に編集委員会と評議員会が開かれたあと，大会2日目の午前から一般講演が行われ，午後には公開記念講演会が開催され，吉田忠生氏（北海道大学名誉教授)による「長崎と海藻研究」，右田清治氏(長崎大学名誉教授）による「九州産天然記念物指定淡水藻の生育現況」の講演が行われた。引き続き，展示発表，総会，懇親会が開催され楽しいひとときを過ごすことが出来た。懇親会参加者は141名であった。

大会3日目には午前中から一般講演が行われ，午後には公開ミニシンポジウム「藻食性魚類の食害による藻場の衰退」(オーガナイザー四井敏雄氏）が開催され3題の講演が行われた。また，最終日にはハウステンボスへのエクスカーションが行われた。大会の運営にあたっては，四井大会会長をはじめ，飯間雅文氏，桑野和可氏ほか多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 第24回大会参加者名簿

Alecia Bellgrove, Annett Tehmann, Bronwyn Robertson, Moat War Dainaw, Raikar Sanjeev Vencu, Rini Sundarmi, Ruth Nielsen, Sarah C. Christensen, Srinivasa Rao Uppalapati, Valerie Stiger, 青木優和，秋岡英承，秋野秀樹，熱海美香，阿部剛史，新井章吾，荒巻裕，有賀祐勝，飯田勇次，飯塚治，飯間雅文，五十嵐聖貴，池原宏二，石川依久子，市原嘉律彦，市村輝宜，出井雅彦，伊藤龍星，伊藤泰二，伊藤隆道，井上勲，今井一郎，岩木博之，岩滝光儀，岩本浩二，上野良一，内田博子，内田英伸，内村真之，上井進也，追鳥まさよ，大西啓介，大野正夫，岡本典子，奥田武男，奥田一雄，長田敬五，影山純子，笠井文絵，葛西ハルエ，加崎英男，梶原庸生，片山舒康，加藤亜記，加藤めぐみ，金井塚恭裕，金田美奈子，神谷充伸，亀井正志，鴨下祐也，鴨下美和，川井浩史，川口栄男，川嶋昭二，河津かおり，川原逸朗，川村嘉応，菊地則雄，金聖浩，木村靖子，桐山隆哉，金高卓二，日下啓作，熊野茂，倉島彰，倉橋亜希，栗原暁，栗山あすか，桑野和可，小亀一弘，小林一隆，小林敦，近藤貴靖，嵯峨直恆，坂西芳彦，坂山英俊，櫻井納美，佐々木秀明，佐々木謙介，佐藤征弥，島袋寛盛，下村謙悟，菅原洋子，杉野伸義，洲崎敏伸，鈴木秀和，須谷昌之（及び高校生5名)，関口弘志，関田諭子，芹澤如比古，高野敬志，高橋昭善，瀧下清貴，田口保彦，竹下俊治，武田宏，田中博，田中貞子，田中次郎，田中敦子，田中敏博，田中和弘，田辺敦，谷昌也，田幡憲一，津田藤典，土屋英夫，寺田竜太，寺脇利信，傳法隆，道家章生，德田拡士，豊田健介，長里千香子，中澤敦，中島典之，長島秀行，中嶋泰，中原美保，中山剛，南雲保，名畑進一，成田貴子，南波聡，南森隆司，野崎久義，野田幹雄，能登谷正浩，野呂忠秀，長谷川啓介，長谷川和清，幡野恭子，羽生田岳昭，馬場将輔，林正男，林田文郎，原慶明，半田信司，樋口澄男，比嘉敦，平岡雅規，福島博，藤島純子，藤田大介，藤田雄二，藤吉栄次，保科亮，細井利男，堀輝三，堀口健雄，本多正樹，本多大輔，松尾嘉英，松岡數充，松本正喜，松山和世，真山茂樹，三浦昭雄，右田清治，水野真，御園生拓，峯一朗，宮坂郁，宮下英明，宮地和幸，宮永貴幸，宮村新一，宮本奈保，村岡大祐，村上明男，本村泰三，森　史，森田哲生，森田晃央，守屋真由美，矢野友美，矢部和夫，山崎武央，山田英明，山本正之，湯浅健，圦本達也，横尾一成，吉井幸恵，吉川伸哉，吉崎誠，吉田忠生，吉田吾郎，吉武佐紀子，四井敏雄，和田実，渡辺信　（以上207名）

(3) 編集委員会・評議員会

3月28日に長崎大学全学教育事務棟3Fセミナー室において英文誌編集委員会および和文誌編集委員会を合同で開催した。和文誌に関しては田中編集委員長より第47巻，48巻「藻類」の編集状況などに関する報告があった。編集経費，特集・連載記事などに関して議論が交わされた。英文誌に関しては本村編集長から第47,48巻「Phycological Research」の編集状況，年間投稿状況，オンラインジャーナルなどに関する報告があった。また，平成12年度より科学研究費補助金（研究成果公開促進費）学術定期刊行物公募の審査体制が変更されたことに関して報告があり，外国での「Phycological Research」の購読数を増加させる対策などについて話し合われた。

引き続き評議員会を同会議室で開催した。2000年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関しての審議を行った。また，国際藻類センターについて石川依久子氏より報告があった。その他の内容に関しては総会の項を参照されたい。編集委員会・評議員会の開催にあたっては四井大会会長，飯間雅文氏，桑野和可氏ならびに長崎大学の学生諸君に大変お世話になった記して御礼申し上げる。

編集委員会出席者：田中次郎，南雲　保，本村泰三，出井雅彦，井上　勲，今井一郎，奥田一雄，長田敬五，神谷充伸，川井浩史，州崎敏伸，野崎久義，堀　輝三，堀口健雄，村上明男，（オブザーバー：宮村新一，中山剛，岩本浩二）

評議員会出席者：堀　輝三，宮村新一，中山　剛，岩本浩二，田中次郎，南雲　保，本村泰三，鯵坂哲朗，有賀祐勝，石川依久子，市村輝宜，井上　勲，川井浩史，川口栄男，嵯峨直恒，原　慶明，堀口健雄，真山茂樹，吉崎　誠，渡辺　信

(4) 2000年度総会

2000年3月29日の展示発表終了後，長崎大学環境科学部・全学教育棟にて総会を開催した。堀輝三会長の挨拶の後，川井浩史氏（神戸大）を議長に選出して議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1) 会員状況（1999年12月31日現在）：名誉会員3名，普通会員609名，学生会員80名，団体会員58名，賛助会員13名，外国会員119名，国内購読30件。(2) 1999年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は1,060,000円であった。(3) 第23回大会を1999年3月27日～30日山形大学理学部先端科学実験棟・教養教育2号館で開催した。(4) 評議員会を3月27日に総会を3月29日にそれぞれ山形大学教養教育1号館第1会議室，教養教育2号館2開A会場で開催した。(5) 11月29日に秋季シンポジウム「藻類の安全性と健康への効果」を学士会館で開催した。(6) 日本藻類学会論文賞を長里千香子氏，本村泰三氏，市村輝宜氏へ授与した。(7) 第18期日本学術会議学術研究団体登録をした。(8) 日本学術会議第18期会員候補者として石川依久子氏を推薦した。(9) 地球圏 - 生物圏国際共同研究計画(IGBP)コングレス（5月7日～13日，神奈川県湘南国際村)に協力した。(10) 第3回マリンバイオテクノロジー学会（5月27, 28日　工業技術院筑波研究センター）に協賛した。(11) 平成12年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」（研究成果公開発表(B)）2件の申請をした。(12) インターアカデミーパネル2000年会議及び第8回アジア学術会議に対して協力した。

●会計関係

(1) 2000年3月24日現在の会費納入率は，普通会員95%，学生会員76%，賛助会員85%，団体会員60%，外国会員96%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項参照のこと。

●編集関係

(1) 1999年に発行した和文誌「藻類」47巻1～3号は，総頁数254頁，掲載論文数6，総説2，記事16，その他雑録であった。(2)　1999年度に発行した英文誌「Phycological Research」第47巻1～4号は総頁数289頁で掲載論文数33編であった。(3) 英文誌「Phycological Research」についてBlackwell社と2000年1月から2年間の出版契約を結んだとの報告があった。

【審議事項】

●庶務関係

(1) 以下の2000年度事業計画が承認された：1）第24回大会・総会・評議員会（長崎大学）の開催，2）「Phycological Research」48巻1～4号の発行，3）藻類48巻1～3号の発行，4）秋季シンポジウムの開催，世話人大野正夫氏（高知大），5）平成13年度秋季シンポジウム開催を計画する，6）日本藻類学会論文賞の授与，7）第4回マリンバイオテクノロジー学会(5月20, 21日，香川県民ホール）の協賛。8）日本植物学会第64回大会で藻類関係のシンポジウムを計画する。9) 会長・評議員選挙を行う。(2) アジア太平洋藻類学連合（APPA）への日本藻類学会としての加盟，およびCouncil member（各国学会長）とExecutive committee members（2名）の選出についての提案がなされ承認された（詳細については「藻類」第48巻1号51-52頁参照のこと）。Executive committee membersとしては原慶明氏（山形大）と川井浩史（神戸大）が推挙され，承認された。(3) 日本藻類学会創立50周年記念大会(2002年）と第3回APPFとの合同開催について提案がなされ，承認された（詳細については「藻類」第48巻1号52頁参照のこと）。(4) 2002年の日本藻類学会大会はつくば地区で開催し，渡辺信氏（環境研）にお世話をお願いすることになった。(5) 日本藻類学会創立50周年記念事業については評議員会で組織，行事内容，資金などについて検討し来年度の総会に報告することが承認された。(6)「藻類」バックナンバーについては各号30部を残して処分することが承認された。処分方法については会長・事務局と現在保管する部処の人々の協議に一任された。(7) 植物分類学関連学会連絡会共同名簿についてはこれまで通り希望者のみ名簿に掲載することが承認された。

●会計関係

(1) 1999年度一般会計決算報告および同監査報告は表

1の通り承認された。(2) 1999年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2の通り承認された。(3) 2000年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表3，4の通り承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】

第3回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは1999年度に出版された「藻類」，「Phycological Research」ともに1～3号の中から規定により審査員の投票により選ばれたもので，総会前日に開催された編集委員会および評議員会で了承を受けたものである。今回の投票では最高得票数を得た以下の論文の著者に賞状が授与された。

Chemical races in the red alga *Laurencia nipponica* (Rhodomelaceae,Ceramiales)(受賞者：安倍剛史氏，増田道夫氏，鈴木輝明氏，鈴木稔氏)

2. その他の報告

(1) 植物分類学関連学会連絡会議

表記の第11回会合が2000年3月26日に東北大学で開催された。藻類学会からは横山亜紀子氏（山形テクノポリス財団）が代理出席した。代表が出席した他の学会は植物地理・分類学会，植物分類地理学会，地衣類研究会，日本シダ学会，日本植物分類学会，日本蘚苔類学会，種生物学会であった。1)秋の植物学会大会での連絡会企画のシンポジウムについて「植物の大系統-最新のトピック-」(仮題）というテーマで行うことになり，藻類学会からは井上勲氏（筑波大）がオーガナイザーになり，中山剛氏（筑波大）と本多大輔氏（甲南大）に講演をお願いすることになった。2) 日本動物分類学会連合の発足と植物分類学関連学会連絡会の対応について話し合われ，連絡会としては当面は井上健氏（信州大）を担当窓口として動物分類学会連合から連絡会へ情報を提供していただく形をとることにとどまり，連絡会としてのアクションは起こさないことになった。3) 連絡会企画の科研費，平成12年度基盤研究(C)研究計画調書「分類学関連学会の連携に基づく生物多様性共同基礎研究の推進」を提出した（残念ながら，この科研費は不採択になった)。また，この科研費は今年度も申請することになった。4) 日本植物分類学会と植物分類地理学会がおおむね統合に向けて動くことになったとの報告があった。5) 植物学会以外で連絡会企画シンポジウムを企画してはどうかという提案があった。シンポジウムの立案などに関しては各学会で検討することになった。6) 共同名簿の発行の統括と今後の取り組みについて議論がかわされ，2001年9月末までに各学会がデータをまとめ，2001年11-12月をめどに新しい共同名簿を発行することになった。

(2) 平成12年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の「Phycological Research」への交付内定について：昨年度申請した上記促進費について1年間1,800,000円の内定通知があった。

(3) 平成12年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」の交付内定について：昨年度申請した2件のシンポジウム・学術講演会のうち「生物はいかにして硬くなったか-バイオミネラリゼーション研究の最前線」（世話人：南雲保氏，日歯大）が採択され，2001年3月27日（火）に日本歯科大学でシンポジウムを開催することになった（詳細は「藻類」48(1): 49. 参照)。

(4) 日本植物学会第64回大会での藻類関係のシンポジウム開催について

「葉緑体-細胞内共生体としての動態を藻類に探る-」（責任者：川井浩史氏，神戸大，堀口健雄氏，北大）というテーマで開催する予定である。予定シンポジウムの内容は以下の通りである。

1) 川井浩史（神戸大学）「イントロダクション-葉緑体の起源から見た藻類の多様性-」 2) 杉田護（名古屋大学）「ラン藻ゲノムと色素体ゲノムの構造と発現」 3) 石田健一郎（University of British Columbia)「細胞内共生体の手なずけ方-二次共生由来葉緑体へのタンパク質輸送-」 4) 箸本春樹（東京大学)「葉緑体分裂から見た藻類の多様性と統一性」 5) 本村泰三（北海道大学)「藻類に見られる葉緑体の分配機構」 6) 堀口健雄（北海道大学)「クレプトクロロプラスト-盗まれた葉緑体：捕食と細胞内 共生の間-」

(5)「Phycological Research」のオンラインジャーナルについて：準備段階であるとの連絡がBlackwell社からあった。近いうちに会員の皆様は同誌をオンラインで読むことができるようになる予定である（契約期間中は会員の皆様には無料で提供の予定)。

(6) 日本藻類学会会長・評議員選挙について

2001年1月1日から2002年12月31日を任期とする次期会長・評議員選挙を8～9月の期間に行う予定である。

表 1-1. 1999 年度一般会計決算（1999.1.1 ～ 1999.12.31）

収入の部（円）			支出の部（円）		
会費		5,982,570	和文誌印刷・発送費		1,810,820
	普通会員 4,373,000			印刷代 1,274,485	
	学生会員 280,000			別刷代 319,640	
	外国会員 525,570			発送費 216,695	
	団体会員 654,000		英文誌印刷・発送費		5,944,599
	賛助会員 150,000		編集費		156,465
販売		536,450		編集補助費 40,000	
	定期購読 403,950			通信連絡費 81,503	
	バックナンバー132,500			事務用品費 34,962	
別刷代		329,600	庶務費		219,640
超過頁負担金		24,000		事務用品費 16,292	
広告代		260,000		会議費 47,000	
受取利息		4,025		通信・印刷費 119,680	
文部省刊行助成金		1,060,000		諸雑費 36,688	
英文誌還付金		79,483	幹事旅費補助		0
雑収入		10,160	事務補助		22,000
寄付金		308,000	第 24 回大会補助費		119,481
			秋季シンポジウム補助費		50,000
			自然史学会連合分担金		20,000
小計		8,594,288	小計		8,343,005
前年度繰越金		7,170,908	次年度繰越金		7,422,191
合計		15,765,196	合計		15,765,196

表 1-2. 1999 年度一般会計貸借対照表

貸方（円）		借方（円）		
普通預金（常陽銀行、つくば1）	5,156,809	未払金		995,148
普通預金（常陽銀行、つくば2）	1,061,056	前受会費		1,810,000
普通預金（常陽銀行、つくば3）	836,633	次期繰越金		7,422,191
普通預金（関東銀行、つくば）	16,352		前期繰越金 7,170,908	
郵便振替口座（つくば1）	538,200		当期剰余金 251,283	
郵便振替口座（つくば2）	2,021,880			
郵便振替口座（松江）	53,885			
現金（つくば）	30,519			
現金（札幌）	-10,995			
未回収金	473,000			
合計	10,227,339	合計		10,227,339

表2-1.　1999年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算（1999.1.1 ～ 1999.12.31）

収入の部（円）		支出の部（円）	
山田博士記念号販売	3,000	論文賞用雑費	600
受取利息	2,683		
小計	5,683	小計	600
前年度繰越金	2,592,250	次年度繰越金	2,597,333
合計	2,597,933	合計	2,597,933

表2-2.　1999年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表

貸方（円）		借方（円）		
定期預金（住友、京都）	1,900,000	次年度繰越金		2,597,333
普通預金（住友、京都）	687,521		前年度繰越金 2,592,250	
現金（つくば）	9,812		当期余剰金 5,083	
合計	2,597,333	合計		2,597,333

日本藻類学会1999年度決算報告書に対し記名捺印する。2000年3月20日　会長 堀 輝三，会計幹事 中山 剛
決算書が適正であると認める。　2000年3月20日　会計 監査　渡辺眞之，北山大樹

表3.　2000年度一般会計予算案（2000.1.1 ～ 2000.12.31）

収入の部（円）			支出の部（円）		
会費		6,075,900	和文誌印刷・発送費		1,970,000
普通会員	4,075,200		印刷代	1,500,000	
学生会員	283,500		別刷代	250,000	
外国会員	583,200		発送費	220,000	
団体会員	783,000		英文誌印刷・発送費		6,000,000
賛助会員	351,000		編集費		450,000
販売		370,000	編集補助費	150,000	
定期購読	300,000		通信連絡費	200,000	
バックナンバー	70,000		事務用品費	100,000	
別刷代		250,000	庶務費		550,000
超過頁負担金		0	事務用品費	50,000	
広告代		120,000	会議費	50,000	
受取利息		3,000	通信・印刷費	400,000	
文部省刊行助成金		1,060,000	諸雑費	50,000	
英文誌還付金		70,000	幹事旅費補助		20,000
雑収入		2,000	事務補助		100,000
寄付金		250,000	第25回大会補助費		120,000
			秋季シンポジウム補助費		50,000
			自然史学会連合分担金		20,000
小計		8,200,900	小計		9,280,000
前年度繰越金		7,422,191	次年度繰越金		6,343,091
合計		15,623,091	合計		15,623,091

表4.　2000年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算案（2000.1.1 ～ 2000.12.31）

収入の部（円）		支出の部（円）	
受取利息	10,000	論文賞用雑費	1,000
小計	10,000	小計	1,000
前年度繰越金	2,597,333	次年度繰越金	2,606,333
合計	2,607,333	合計	2,607,333

会　員　移　動

編集後記

編集2号目，前学期中は本業もあり，あたふたと作業をしました。今は梅雨，次号の編集は紅葉の秋。
(J. T. & T. N.)